

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、小学6年生と中学3年生を対象に行われているものです。

内容は「教科(国語, 算数・数学)に関する調査」と「生活習慣や学習環境に関する質問紙調査」の2つです。

1. 「教科に関する調査」の結果

【国語】

全体としては全国平均の正答率ををやや下回っています。読む能力と書く能力に弱点がみられ、記述式の問題形式においてその傾向が顕著です。

【数学】

全体としては全国平均の正答率ををやや下回っています。数と式および数学的な技能に弱点がみられ、数量や図形などについての知識と理解が不十分です。

2. 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の結果

「基本的な生活習慣が身につけている」こと、「規範意識を持っている」ことが明らかになりました。このことがものごとに真面目に取り組もうとする姿勢につながっていると思われれます。しかし「学習への関心がやや低く」、「計画を立てて学習を行う」生徒の割合が低かったり、「自己有用感」を感じられない割合が多かったりする状況から、自ら考え実行するためのトレーニングが引き続き必要と考えられます。また、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使い方については、①「家庭での約束が無かったり、話し合いがなされていない」と答えた生徒が国や県の実態と比較して多い。②「ゲームをするためにICT機器を1日1時間以上使う生徒が約8割」。③「読書時間が少ない生徒が非常に多い」ということがわかりました。

3. 今後の取り組みについて

学校では調査の実施後に自校で現状分析を行い、授業改善を図って参りましたが、このたびの調査結果の提供をもとに、さらに学力向上に向けた取り組みを一層充実していきたいと考えています。今後も職員全員で課題を共有し、学力向上プランの見直しとともに指導方法の工夫・改善を組織的に進めていくことにしています。また正しい生活習慣の維持と計画的な学習については学校だけでなく、ご家庭の協力無しには行えません。今回の結果報告をふまえて、学力向上に向けて学校と家庭が一体となった取り組みを推進できるようよろしくお願いいたします。